

新型コロナウイルス感染症に対する当院検査科の取り組み

| | |
|-------|-----------------|
| 法人名 | 国家公務員共済組合連合会 |
| 病院名 | 横須賀共済病院 |
| 職種・所属 | 臨床検査技師・中央検査室 |
| 発表者氏名 | 難波真砂美 |
| 協力者氏名 | 小塩智康 高橋のぞみ 津浦幸夫 |

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症が蔓延してから 1 年以上が経とうとしているが、未だに収束が見通せない状況が続いている。その中で当院検査科が臨床検査技師として何が出来るかを模索しながら、取り組んできたことについて報告する。

【方法】

1) 臨床検査技師の検体採取の実施、2) 新型コロナウイルス検査の実施、3) 患者さんとスタッフがより安心安全にできる検査と環境整備の 3 点について対策をとってきた。

【結果】

1) 臨床からの要望もあり臨床検査技師による検体採取実施に向け準備を開始した。当院検査科スタッフの約 9 割が検体採取等に関する厚生労働省指定講習会を経て資格を取得していたが、未取得者についても日本臨床検査技師会により開催された web 講習会を受講し検体採取の資格を習得し、検査科内で PPE 脱着を含む検体採取トレーニング実習を実施した。2020 年 4 月からは医師・看護師とともに横須賀 PCR センターへ参加し臨床検査技師が検体採取を実施し、現在も当院敷地内にある横須賀第 2PCR センターで継続している。また院内においては全入院前検査の検体採取に向け準備し、週 5 日検体採取を実施している。2) 検査のできる人材と既存機器から、新型コロナウイルス感染症検査を当院でどのように実施していくかを検討中の 3 月に、まず PCR 検査を外注に委託するための準備を始め、院内では 6 月に抗原定性検査を開始し。遺伝子検査は当院感染制御部医師とも相談し、LAMP 法を 7 月から導入することになったが、更なる人材教育のために神奈川県臨床検査技師会が実施している「PCR 検査の体制強化のための研修」受講した。また 8 月には全自動遺伝子解析装置 FilmArray を導入し 24 時間 365 日体制で PCR 検査に対応している。3) 各検査については学会推奨をもとに医師と相談のうえ検査実施内容を決め、病院の理解と当院感染制御部の指導を受け、環境整備として飛沫防止カーテンの設置やフェイスシールドの着用、生理検査室では要所要所の消毒やベッド周りの使い捨てカバーの使用など、患者さんとスタッフができるだけ安心安全に検査ができるよう取り組んだ。

【まとめ】コロナ禍で活動することで今まで以上に様々な職種スタッフと連携をとることができ、そのことで理解も深まり臨床検査技師をより知って頂き機会にもなった。また検体採取業務に係わることで医師・看護師の負担軽減にも貢献できたのではないかと思います。今後は検査の精度や迅速性を担保しながら、日常業務に追加する形となった検査や検体採取業務によるスタッフの負担を、いかに軽減していくかということが課題と考えている。